

**はじめに**

第19期12回東部海区漁業調整委員会を開催しましたので、概要をお知らせします。

出席委員（敬称略）木村、富田、東田、川口、松本、上野、二本柳、澤口、松下、田高、川端、葛西、服部、熊谷

欠席委員（敬称略）なし

開催日時：平成22年6月24日（木） PM 1:30～

開催場所：青森市 アラスカ会館 4階「パール」

議 題**1. 東部海区漁業調整委員会指示第2号に基づくいかつり漁業の新規操業承認について（決定）**

去る平成22年2月26日付けで発動されました東部海区管内におけるいかつり漁業の操業承認に関して、この度、大畑町漁業協同組合長から新規5隻、奥戸漁業協同組合長から新規1隻、八戸みなと漁業協同組合長から新規1隻の計7隻の操業承認要望があり、当委員会において審議が行われた結果、認めることに決定しました。

【承認要望の内容】

	大畑町漁協	奥戸漁協	八戸みなと漁協
1. 総トン数	2.3t～4.36t	4.9t	4.62t
2. 馬力数	D50～70ps	D90ps	D90ps
3. 根拠地港	主；大畑港	主；奥戸港従；下風呂港	主；八戸港
4. 操業方法等	手釣り	いか釣り機8台設置 集魚灯光力18kw	いか釣り機8台設置 昼いか操業

2. 青森県東部海区管内まだら底はえなわ漁業試験結果について（報告）

県水産振興課（漁業管理グループ）から、平成21年度の東部海区管内まだら底はえなわ漁業試験結果について報告がなされました。

【試験操業の概要】

1. 委託隻数 6隻
2. 委託期間 平成21年9月1日から平成22年2月28日まで
3. 漁獲数量 マダラ 433トン
その他 42トン

3. 平成22年度全漁調連通常総会の結果概要等について（報告）

去る5月20日に、東京都内のホテルアジュール竹芝で開催されました平成22年度通常総会（第46回）の結果概要等について、以下の報告がなされました。

- （1）全国海区漁業調整委員会連合会（以下「全漁調連」という。）会則の一部改正が承認され、年会費が2万円減額されて年額16万円となりました。

(2) 平成22年度における全漁調連として、国へ要望する協議事項が決議されました。なお、決議された協議事項は以下のとおり5項目となっております。

海区漁業調整委員会制度について

沿岸漁場の秩序維持について

沿岸漁業と沖合(指定)漁業の調整等について

外国船問題等について

漁業者の安全操業の確保について

(3) 通常総会終了後に開催されました海区漁業調整委員会60周年記念大会において、本委員会の川口委員、松本委員、上野委員に対して、水産庁長官感謝状が授与されました。

次会の開催予定

開催時期 7月13日(火曜日) 開催場所 青森市内

おわりに

先般、あるテレビ番組で「CAS」急速冷凍システムという従来と異なる冷凍技術が開発され、同システムは食の世界の常識が変えていくということが紹介されました。同システムは、冷凍庫内の磁場で水分子を振動させることにより素材の細胞を破壊せずに急速冷凍する技術で、細胞膜が壊れないため、アミノ酸や微量要素などの「旨み成分」を閉じ込めたままの冷凍が可能となる。従来の冷凍方法では、氷結することによる体積の膨張により細胞が破壊されてしまい、解凍後に水分とともに細胞内の栄養が流れ出し(ドリップ)、旨みが損なわれて美味しくない、食感が悪くなるなど食品の味を落としていたが、CASシステムは、限りなく生に近い鮮度で蘇える、素材の新鮮さと美味しさを再現することが可能になるとのことでした。(CASは「Cells(細胞) Alive(生きている) System(システム)の略)

本県は本州最北端という地域的ハンディがあるが、りんご、ホタテガイ、ヒラメなど美味しい豊富な農林水産物に恵まれていることから、それらを採れたての美味しい状態で、そのまま長期冷凍保存が出来れば、味で勝負に勝てるとともに、周年にわたって大手スーパー等へ安定供給が可能となることから、現在、県が進めている農林水産業の6次産業化に向けて、このCASシステムの利活用した新たな産業の創出等について検討してみる必要があるのではないかと考えます。(文責 山口)

連絡先
青森県海区漁業調整委員会事務局
TEL: 017-734-9851
FAX: 017-734-8166